

経営比較分析表（令和2年度決算）

埼玉県 戸田市

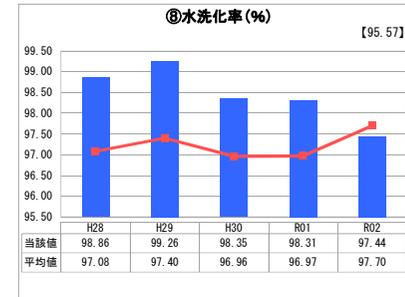
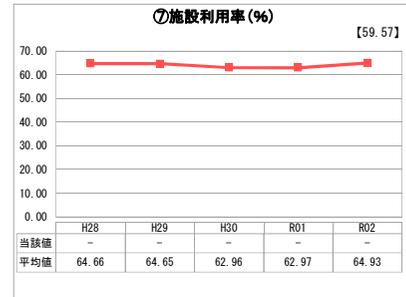
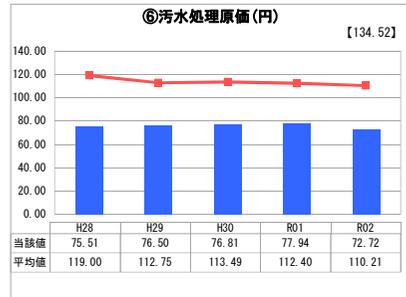
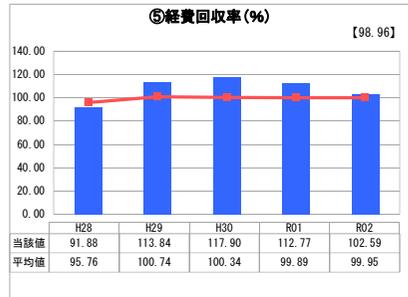
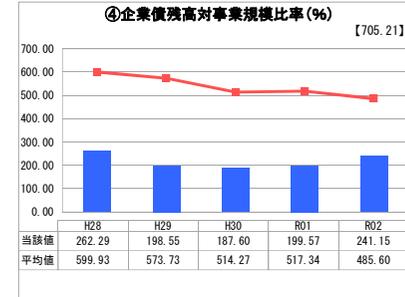
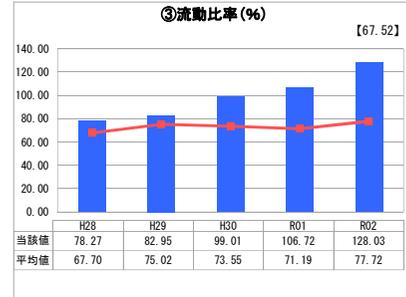
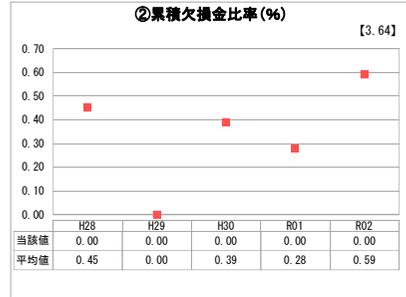
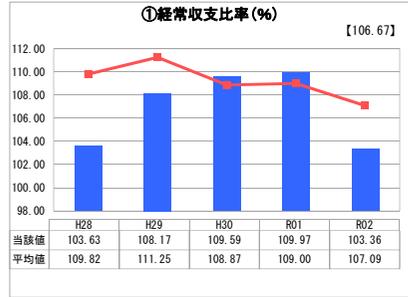
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	56.12	93.65	83.19	1,023

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
141,033	18.19	7,753.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
131,999	12.40	10,645.08

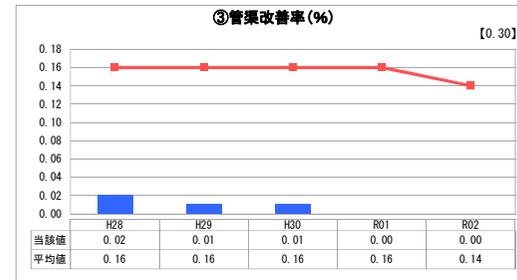
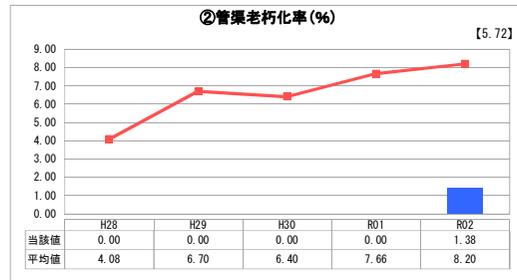
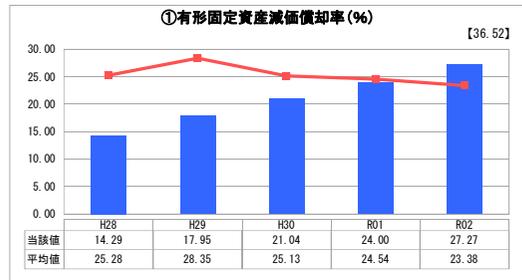
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
収益的収支の均衡を表す指標です。令和2年度ではコロナ対応による下水道使用料の減免を実施したことから下降しましたが、収支は黒字を確保しています。類似団体より低い水準となりましたが、⑤経費回収率は100%を上回り使用料収入で汚水処理費を賄っている状況です。

② 累積欠損金比率
累積欠損金とは、収支の赤字が複数年度にわたり累積したものです。本市の収支は黒字を維持しているため、累積欠損金はありません。

③ 流動比率
短期的な債務に対する支払能力を表す指標です。本市では継続して100%以上を維持しており支払能力に問題はありません。

④ 企業債残高対事業規模比率
下水道施設を建設する際の借入金残高の規模と下水道使用料収入との均衡を表す指標です。類似団体より低い水準にありますが、今後も合理的な投資による適宜な債務残高の維持や、使用料収入の確保に努める必要があります。

⑤ 経費回収率
使用料収入と汚水処理費用の均衡を表した指標です。平成29年度以降は使用料改定を実施したことにより経費回収率が100%を超え、使用料収入で汚水処理費を賄うことができています。

⑥ 汚水処理原価
有収水量1m³あたりの汚水処理に係るコストを表した指標です。本市は面積が狭く平坦な地形で、建物が密集しているため、設備をコンパクトかつ効率的に利用できることから、効率的に汚水処理を行うことができます。その結果、類似団体と比較して汚水処理原価が低い傾向です。

⑦ 施設利用率
下水道施設の利用状況等を判断する指標です。本市は下水道処理を保有しているため、本指標は該当しません。

⑧ 水洗化率
処理区域内人口の内、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標です。前年度より率が減少していることから、接続啓発に注力し、今後も普及を促進していきます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
有形固定資産における減価償却の進捗度や資産の老朽化を表す指標です。類似団体よりやや高く、上昇傾向にあります。施設全体の老朽化が進みつつあることから、計画的、効果的な償却対象資産の更新等を行う必要があります。

② 管渠老朽化率
法定耐用年数を越えた管渠延長の割合を表した指標です。今後、老朽化率が高くなっていくことが見込まれ、計画的に更新を進めていく必要があります。

③ 管渠改善率
当該年度に更新した管渠延長の割合を表した指標です。今後、老朽化が進行していくことも明らかなため、老朽化の状態を把握し、必要に応じて更新・改善ができるよう調査・解析を進めます。

全体総括

平成29年度に使用料改定を実施したことにより、経費回収率は100%を超え、経営状況は概ね良好であると言えます。
課題としては、今後、管渠及びポンプ場施設等の老朽化に伴う更新費用の増加と下水道未整備地区の整備が重なり、建設改良費は増大していくことが見込まれることから、下水道ビジョンや経営計画等に基づいて、計画的な改築更新を実施していきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。